

どっかい生きてます!



ゴールデンウィーク(GW)期間中の5月3、4の両日、潮騒ジョブトレーニングセンターでは体験型の研修 & レクリエーション・プログラムに挑戦しました。初日にはデイケアを中心とした入寮者ら約100人が参加して、行方市の茨城県白浜少年自然の家で手打ちうどん作りやグランドゴルフ、さらには北浦での魚釣りを体験しました。2日目は、北浦沿いにある鹿嶋市の潮騒水田で、仲間達が手植えによる田植え体験を行いました。いずれも初体験メンバーが多く、新鮮な印象を与えていました。

2017

5

“行き場のない仲間”の 登場で命の尊厳を思う



私が毎晩学んでいる地元の高校での出来事です。休み時間に、孫世代よりも若いクラスメイトがスケートボードで遊んでいました。スキンシップを図ろうと私も仲間に入れてもらい、見様見真似でスケボーに乗ったところバランスを失って転倒し、腰を強打してしました。幸い骨折には至りませんでした。が、ひどい打撲で松葉づえの不自由な生活が続きました。この経験で「暦年齢」への自覚を強くし、自分の体をいたわるようになりました。自分の命がとてもいとおしいのです。命が惜しいのです。かつて私は所属する暴力団組織に命を預け、怖いものしらずで「自分はいつ死んでもいい」とうそぶいていました。でも、実のところ私には、死に対する恐怖心をごまかすためにアルコールや薬物に依存した部分がありました。それが今や依存症の回復の道を歩んで14年、新しい生き方を手にしたこと。で弱音を吐くことが少しも恥ではありません。むしろ弱さを認める事ことが、実は本当の強さに繋がるという考え方に立っています。

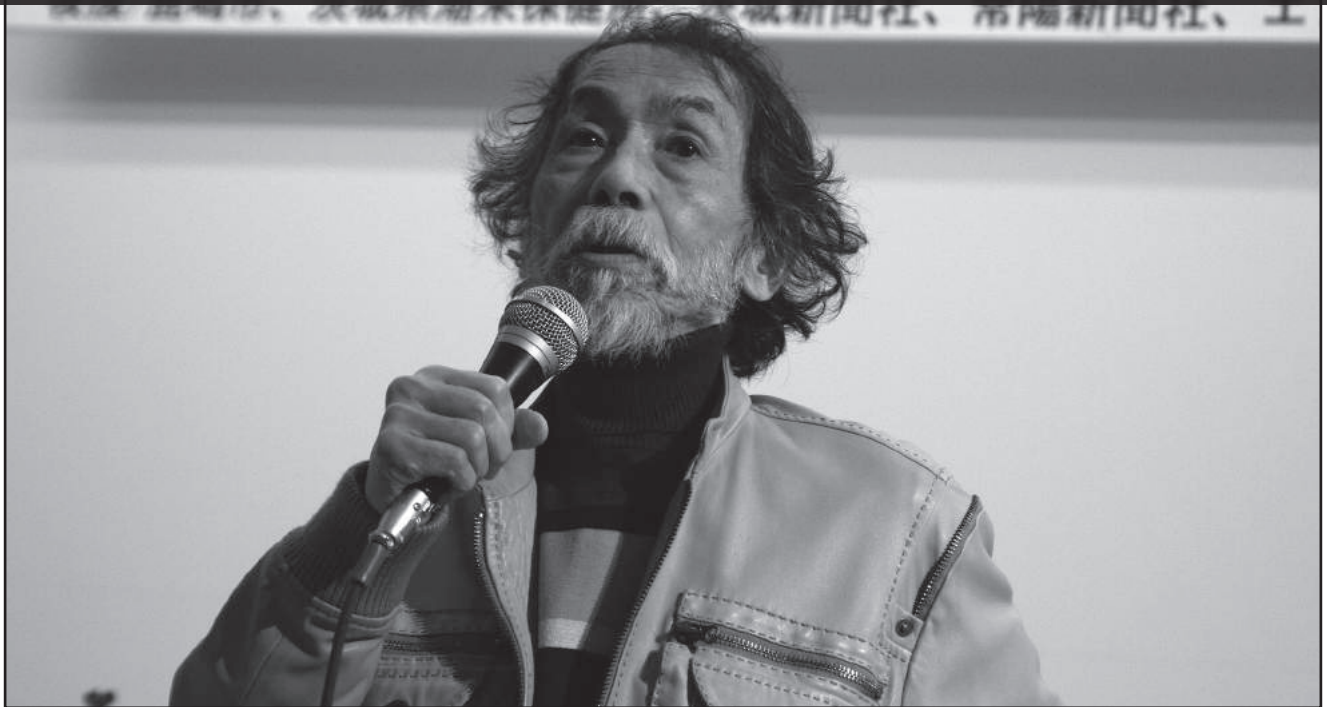
このように最近の私は、「命の重さ」「命の大切さ」「命の尊厳」に強く思いをはせるようになりました。日々、学校で思春期の若いエネルギーに刺激を受けている事もありますが、先にTBSテレビ「報道特集」で放送されたように、困難な障害を持つ“行き場のない仲間”を受け入れたことで、生きる事についての彼らの秘めたパワーに気づかされたのです。これまでの経験を超える施設運営の難しさに直面しながらも、潮騒の仲間達が熱心にかかわり、面倒を見ることで彼らが次第に変わっていく、生きる事に前向きになっていく姿を目の当たりにしています。私はそこに、理屈を超えた人間同士の深い信頼関係を見ました。世間ではダメな人間と烙印を押され、差別されてきた私達ですが、新しい仲間にも障害の種別や立場を超えて、等しく回復に向けた歩みを共有しているのです。そこには何らの差別がないことも実感しています。これこそ福祉が目指す、究極の目標ではないでしょうか。

命が軽んじられる任侠世界で生きてきた私ですが、その過去がすべてダメだと切り捨てることはできません。例えば義理と人情は任侠道の専売特許ですが、義理はともすると不条理な面をのぞかせますが、人情は誰しもが人間として持っている心の働きであり、心の温かさからくる他人への愛情や同情、人を大切に思う素朴な感情だと、自分なりに理解しています。ですので、私は人情を重んじる考え方を潮騒に引き継いでいきたいと考えます。依存症に限らず人が回復していく、生まれ変わっていくということは、口で言うほど簡単ではありません。そこは、まさしく人情の世界がかかわると思います。少し前に本欄で私は仲間の死を引き合いに、潮騒が死に近い場所だと述べました。死を身近に意識する居場所だからこそ、私は人一倍「命の尊厳」を大事にする施設でありたいと願います。奇しくも今年11月23日の勤労感謝の日に関く潮騒12周年フォーラムのテーマは「義理と人情と神の愛～主役は仲間たちだ!」に決まりました。私の意をくんでくれたスタッフの仲間達に感謝です。

(センター長 栗原 豊)

秋元豊・秋元病院名誉理事長のご逝去を悼む

栗原センター長が「お別れ会」に参列し弔意／スタッフらもレクイエムメッセージ寄せる



アルコール依存症の回復に向けた自助グループ活動に深い理解を示し、潮騒 JTC の発展を設立当初から下支えして頂いた医療法人梨香会・秋元病院(千葉県鎌ケ谷市)の秋元豊名誉理事長が今年 4 月 21 日、ご逝去されました。享年 79 歳でした。謹んでお悔やみ申し上げます。既に近親者によって葬儀は済まされていましたが、改めて故人のお別れ会が 5 月 17 日に千葉市内で営まれ、大勢の参列者が最後のお別れをしました。潮騒 JTC からは栗原豊センター長が参列し、我が国のアルコール依存症の治療と回復に大きな足跡を残された秋元先生の遺業を偲びました。

◇ ◇ ◇

秋元先生は1980年に同病院を開設。理事長(院長)として開放型の病棟を導入し、内科病棟の併設によるトータルケアや家族システム理論に基づく「家族病棟」の設置など、精神科医療に新たな道を切り拓きました。特にアルコール依存症の治療では専門の入院病棟の認可を受けるなど30年にわたり、先進的な取り組みで高い評価を築いて来られました。また、在宅療養者のための訪問看護システムにも力を入れ、デイケア、自助グループ活動、就労サポートなど社会復帰に向けた支援の充実にも努められました。

潮騒 JTC との関係では、孤立無援の逆風の中でスタートした潮騒に、早くから温かい眼差しを注いで多くのアルコール依存症患者の入寮を促して頂き、困難だった施設運営の安定化に大きく貢献して頂きました。また、第 1 回

から 3 度にわたり潮騒フォーラムで講演にも立ち、持論である回復支援施設の重要性を説いて頂きました。潮騒のベテランスタッフの多くが、秋元病院経由で入寮し回復の道を歩んでいることから、その功績の大きさが見て取れます。

栗原センター長は「秋元先生の存在がなかったら、潮騒の今日の発展はなかった。いわば施設発展の原動力とも言える尽力を頂いた。先生の名言の中でも忘れられないのが、“アルコール依存症を治せると自負する医者がいたら、それはヤブ医者だ。依存症は病院では治らない。自助グループと中間施設との連携でこそ回復のルートに乗ることができる”との言葉。私も同じ名前の“豊”繋がりで親近感を抱いていたので、大きな柱を失った感がある。どうか天国で安らかに眠ってください」と追悼の言葉を述べました。

秋元病院から潮騒に繋がったスタッフも、「長い間お疲れ様でした。ご冥福をお祈りします」(コバ)、「謹んでお悔やみ申し上げます」(水落長吉)、「心からお悔やみ申し上げます」(ヒロ) など共通して弔意を表しました。また、今では潮騒の「顔」となった農業隊からも「潮騒農業の就労支援プログラムでは秋元病院からたくさんのヒントを頂きました。先生のご逝去に際し、深い悲しみを禁じえません」(リーダーのヒトシ)などと、お悔やみの言葉を表しました。(潮)



2017 シリーズ企画

潮騒ジョブって
どんな
施設なの?

その3

デイサービス
「百寿亭」

アディクトの老後を補完する高齢者介護施設
若いリーダーが全員20代のスタッフを引っ張る

◀デイサービス「百寿亭」代表まこと

前回紙面の都合で休載しましたが、潮騒ジョブトレーニングセンターの概要を順不同で紹介するシリーズ企画の3回目は、高齢者介護デイサービス施設の「百寿亭」(通称・百寿)です。間口の広い潮騒JTCの特徴から、急増した高齢依存症者の終の棲家をどう確保すべきか? この難問にいち早く取り組む栗原センター長の提唱によって生まれた、潮騒独自の関連施設です。超高齢化社会のこの国にあって、アディクト(依存症者)も老後をどう生きるかは切実な問題です。一般の高齢者でさえ利用できる介護福祉施設は狭き門の状況にあって、社会的偏見の強いアディクトにとって百寿は、安心安全に暮らせる老後の居場所を補完する試みです。経験もノウハウもなかっただけに苦難の歩みでしたが、最近ではスタッフにケアの資格取得者も増え、地域のニーズも反映して安定した施設運営になっています。「事態は待たなし、アディクト向けリハビリ型の介護施設を自前でつくろう」というセンター長の先取の気風を受け、指名を受けた若きリーダーのマコトさんの頑張りが光ります。(広報部)

なぜ潮騒が高齢者介護サービスを 手掛けるのか?

皆さんこんにちは、百寿代表の加勢誠です。デイサービス百寿亭は2015(平成27)年3月20日に、鹿嶋市宮中地区にオープンし、栗原センターの意を受け、若輩の私が責任者に指名されました。私には知識もノウハウもなく、当初は大手事業者の支援を得てフランチャイズ契約で始めさせていただきました。なぜ、その様な経緯にいたったかといいますと、潮騒JTCの仲間の高齢化が深刻になり、施設内での回復プログラムの提供だけでは生

活が成り立たなくなっていたからです。また年々仲間の高齢化が加速し、一人での生活が難しくなった現状も無視できません。

このため受け入れ可能と思われる鹿島地域にある既存の高齢者介護施設を訪ねて窮状を訴えましたが、いざ相談の段階になると本来の依存症という病気が邪魔をし、「ウチは団体生活なので…」「他の利用者様にケガでもあったら…」「職員に知識も経験もないので…」と体よく断られる始末でした。一番の問題は「そもそも介護認定を持っていない方は利用できません」とのことで、改めて高齢アディクトの置かれている厳しい現実を思い知らされました。

今までに経験のない高齢者介護の事業に携わることなど夢にも思っていなかった私ですので、「正直、何をどうしたらいいのか?」「どこに相談したらよいのか?」という無い無い尽くしのレベルで、設立当時はとても苦勞しました。ですが、潮騒JTCで生活している高齢仲間の生活が掛っているので、分からないながらも必死に調べ、相談し、介護認定の調査までこぎつけることができました。当時3名くらいの仲間が認定調査に挑んだのですが、結果はすべて「認定外」でした。「潮騒で一人での生活は難しいのに認定は下りず、介護施設を利用することもできず、この先どうすればよいのか…」と途方にくれたのを覚えています。

困難を自力で打開する 潮騒イズムで頑張る

そんなスタートではありましたが、潮騒の方針でもある「自分たちのことは自分たちで」ではないですが、「既存の

施設でケアが受けられないのなら、自分たちの手でリハビリケアができる施設を作ろう!」となりました。潮騒に繋がった時は元気だった仲間も歳を重ねて、病気やケガ、認知力の低下、身体の筋力低下など、様々なことが起きます。「依存症回復施設のプログラムに参加できない仲間は行政に、他施設に」と考えがちですが、粹に収まらないアディクトだけに既存施設の受け入れは叶いません。そのため栗原センター長は、行き場のない現実を自力で打開するしかないと思腹を括り、私も潮騒で新しい人生を教えられた一人なので、そうした潮騒イズムは身につけていると自負しており、全力で取り組みました。

ですが、いくら全力で取り組んでも、分からないことはわからない。これが現実でした。だったら、分かる方に教えていただくということで、最初に書いたようにフランチャイズという運営になりました。百寿の“売り”については語弊があるかもしれませんが、「依存症と一般利用者の両方の方達のケアができる」ということで、潮騒から私を含め2名、介護施設での介護経験者4名という形でスタートしました。今では18名規模のデイサービス事業に成長しましたが、当時は、10名規模での運営でした。オープン当時は利用者様0人、なんてこともありました。いるのは職員だけで、自分たちにできることは周知しかなく、職員とチラシを作り、何十年振りに自転車に乗り、一軒一軒ポスティングなども行いました。毎日、夜遅くまで会議を開き、どのようにしたら地域の方に利用していただけるか?どのようにしたら既存の利用者様に満足していただけるか?どのようにしたら介護を必要としている潮騒の仲間をケアできるか?—などを職員間で熱く議論し、実践しました。でも、結果がすぐに出ることはなく、苦しい時期が続きました。

「許し、受け入れ、自己改善をしていく」を实践

よく「明けない夜はない」「継続こそ力なり」と言われますが、そうした逆境の中で一人また一人と月ごとに利用者様も増えていきました。潮騒に入寮していて、介護を必要としている仲間も時間はかかりましたが、一人また一人と介護認定が下り、百寿を利用できるようになってきました。お陰様で百寿も今年3年目を迎えることができましたが、地域の高い潜在ニーズを受けて2年目の時に定員が10名から18名に変更となり、それを機にフランチャイズ契約も解消させていただき、名称も「デイサービス百寿亭」に変え、新しい船出となりました。

このように利用者様も増えていくなかで、ケアの質の

向上も問題の種となってきました。百寿の職員は皆20代という若さも“売り”の一つではありますが、若い→元気ではありますが、経験は乏しいというのが現状です。毎月勉強会を開いてはおりますが、それだけで習得は難しく、ならば実践で、といっても、介護という命にかかわる仕事で、スキルアップには時間がかかります。その分、結果的に長く勤めている職員にも負担がかかり、トラブルも起きました。ですが、「許し、受け入れ、自己改善をしていく事の大切さ」(栗原センター長)を職員に伝え、世間に数多い会社組織の縦割り構造とは一風違う、百寿独自の方針で運営させていただいております。

「誤ったときは直ちに認め、改める」を基本に

私の病気なのか、物事を考え、決めたことを実践しても、「どうも違うなあ」と感じると、すぐに変えてしまうことがよくあります。職員からすると優柔不断な代表だと思われるかもしれませんが、所詮は「人間様の答えに100%正しいということはない」のだらうと思います。「誤ったときは直ちに認め、改める」のが私の基本姿勢です。その分、職員のみんなには経験のない事で、戸惑うところはありますが、本当によくやってくれています。私は私で、潮騒で学んでいることを百寿というグループで実践していこうと思っています。潮騒イズムを常に念頭に置き、自分の身を正していきたいと思っています。

百寿も三年目、子供で例えると、色々なことに興味を持ち、よくしゃべり、いろいろなことを学ぶ時期だと思っています。百寿も学びの一年にしていきたいと思っています。周囲の人にどう思われているのか? 気にならないと言ったら嘘になると思いますが、百寿は百寿で自分達にしかできないことを自信を持ってやり、それを誇れることを大切にしていきたいです。良い噂も悪い噂もあるでしょう。ですが、今の百寿の現状が答えだと思っています。必要としている方がいる以上、百寿もこの地に在り続けると感じています。今後も全身全霊で活動していきますので、どうぞ、ご期待あれ!(笑)。(マコト)





初体験

手作りうどん

仲間100人が挑む！

潮騒ジョブトレーニングセンターは5月3日、先に潮騒大運動会を行った会場の茨城県白浜少年自然の家(行方市)で、デイケアを中心とした入寮者らが大勢参加して初の手打ちうどん作り体験に挑みました。午後からは希望者ごとに2つのグループに分かれて、一方は近くの北浦湖岸で釣り体験を行い、他方は芝生広場でグランドゴルフに興じました。また翌4日には鹿嶋市の北浦沿いにある潮騒水田で、デイケアの仲間達が手植えによる田植え体験を行いました。これらはゴールデンウィーク(GW)期間中のイベントプログラムとして取り組み、入寮者達は童心に帰って各イベントを楽しんでいました。

◇ ◇ ◇

3日午前の手打ちうどんづくりは、ピザ作りなども体験できる“いろりの家”で行われました。作業の合い間に職員の説明を受けながら、まず小麦粉を手のひらでよく捏ねて、塊になるとビニール袋に包んで体重を掛けて上から足で踏み込みました。全体がしっとりしたら伸ばし棒で麺を大きく伸ばし、折りたたんで包丁で細く切り、職員が大きな茹で釜でうどんを茹で上げました。グループごとに器にうどんを取り分けて盛り付けし、具を乗せて麺つゆを掛けて冷やしたぬきうどんが完成しました。入寮者は仲間と協力して、素材から食べ物を作っていく楽しさを味わい、「シコシコしていい出来栄だった」「自分

達の手で作っただけに味も格別！」と満足げな表情を見せていました。

午後の魚釣りプログラムでは、北浦湖岸がやや強い風の影響で高波状態となって魚釣りには不向きな日でしたが、それでも仲間の一人が40センチ級のアメリカナマズを二匹釣り上げ、ひとり勝ち状態でした。一方、グランドゴルフに参加した仲間達も競争心を刺激され、夢中になって楽しい時間を過ごしました。入寮者が増えて大所帯だけに、潮騒JTCでは毎年のGWをどう過ごすかが課題です。幸いにも白浜少年自然の家は潮騒から比較的近く、北浦湖岸を望む眺望と広い敷地、自然に恵まれた丘陵地の、宿泊も可能な公共施設だけに、潮騒では今後も積極的に利用したい考えです。

◇ ◇ ◇

4日午前の田植えプログラムは、6反歩ほどの潮騒水田に仲間達がはだしになって入り、休憩しながらも約2時間を掛けて手で稲苗を植えました。慣れない泥の田んぼに足をすくわれたり、かがんでの作業なので腰を気づかったりと、それぞれのペースで田植えを体験しました。多くの仲間が手植えによる田植えは初めての体験のようで、新鮮な印象を得ていました。仲間達は心地よい汗をぬぐいながら、「初めての体験で農家の苦労が実感できた」「植えた苗が順調に育ち、秋の稲刈りが楽しみ」などと話してくれました。(み)



自分で作ったうどんを食べている 笑顔は素晴らしかった

白浜少年の家は大運動会に続き二度目のイベント。今回はうどん作り体験でした。潮騒ジョブの仲間達にとっては初めての体験者も多く、まさか最初からやるとは思っていなかったようだ。最初の粉から練り上げ、団子にして足で踏みつけ、うどんを伸ばすなんてことは想定外の作業だったのでは？ 見たところ、踏んでも踏んでも伸びない仲間もいたし、片や踵(かかと)で踏んで穴になっている仲間もいたし、普通ではなかなか体験できないですね。でも、みんな苦労して自分で作ったうどんを食べている笑顔は素晴らしかった。これからいろんなイベントに参加して楽しみたいですね。それと午後からのグランドゴルフと魚釣り体験。うどん作りが長引いて短い時間だったけれど、グランドゴルフを青い芝の上でのびのびやっている姿、北浦湖岸では強風による荒れた波にもかかわらず熱心に釣りをしている仲間、水しぶきを浴びながらアメリカナマズを二匹も釣り上げた仲間もいた。このような青空の下で自然の空気を吸いながら、みんなが生き生きできるイベントを盛りだくさん考えて行きたいです。今回の GW イベントは大成功でした。



みんなで食べたうどんの味は 格別だった

私は 33 歳の薬物依存症者だが、リハビリ施設としては潮騒への入寮が初めてだった。他の施設のことは分からないが、潮騒は年間を通していろんな行事や充実したレクリエーション・プログラムが取り組まれており、今回は GW 期間中のイベント活動だった。小学校の時に体験学習でやった事は覚えているけれど、今回のように大人になってから、うどんを打ちの作業をまったく最初の工程からやったのは初めての体験だった。麺のコシを作るために、丸めては全体重を掛けた足で踏んでの作業を約30分も繰り返したので、正直大変に疲れた。でも、お陰でいい汗をかいたと思うし、ストレス発散にも繋がった。続く麺伸ばしも、平べったくなった麺を 90 度回転させては伸ばす作業を何回も繰り返したが、とても苦労した分、みんなで食べた冷やしためきうどんの味は格別だった。素材を自分達の手で食べ物にすることの大変さを実感できたのと、みんなで取り組む共同作業がこんなにも楽しいんだとは…、とても新鮮な体験だった。また、このような手作り体験の機会を設けてほしい。

I N F O R M A T I O N

潮騒12周年フォーラムのテーマ決定

義理と人情と神の愛 ～ 主役は仲間たちだ! ～



今年(2017年)の潮騒ジョブトレーニングセンター12周年フォーラムは11月23日(木曜日・勤労感謝の日)に、前年と同じ鹿嶋勤労文化会館(鹿嶋市宮中)で開催します。栗原センター長の巻頭随想(本号2ページ)で報告しているように、プロジェクト会議でフォーラムの正式テーマが「義理と人情と神の愛～主役は仲間たちだ!」に決まりました。読者の皆様、先の事ながら今から潮騒フォーラム参加のために、どうか日程を開けておいてください。

今回は、仲間達がフォーラムの主役であることを確認することにウエートを置きます。そして、ご参加頂く皆さんに入寮者の等身大の回復の姿を見てもらいながら、まずは自分達こそが楽しめる企画にしようと、毎月のプロジェクト会議で幅広い議論を進めています。これまで弁当作り等でフォーラムに参加できなかった「おらげのかまど」や裏方のメンバーも全員参加できるよう、午後からの半日プログラムとなります。でも、中身は前回にも増して濃密な企画になりそうです。潮騒JTCが毎回参加している、都内のリカバリーバレーの仲間達の協力も得て、街頭バレーによる会場入りなども検討中です。決まり次第、本誌でご報告致します。(潮)



▲昨年の潮騒11周年フォーラムのエイサー演舞



トイレもお風呂も使えなかった 窮乏体験が忘れられない

るみの家の水が止まってしまい、一番困ってしまった事はトイレでした。トイレのタンクに水が溜まってないから水が流れなくて、とても困ってしまいました。お風呂にも入れなくて、温泉に連れて行ってもらいましたが、こんな状態が続いて、るみの家での生活ができなくなってしまい、水道の工事で水が出るまで、緊急避難の生活をすることになりました。寝る時は布団を敷いて皆でザコ寝をして、そこでプログラムをしました。芋詰めをしたり、ミーティングをしたり…。水が止まって大変だったけど、なんだか修学旅行みたいでちょっと楽しかったです。でも、るみの家に戻ったらとても安心しました。「やっぱり、るみの家がいいな！」とつくづく思いました。こんなにも水が止まってしまうと大変なんだ、とつくづく思いましたが、忘れられない出来事になりました。

すっかり報告が遅れてしまいましたが、シェルター機能を有する潮騒 JTC の女性専用ハウス「るみの家」で、水回りのトラブルが発生して断水に見舞われ、入寮者が“プチ避難生活”を余儀なくされました。予期しないハプニング体験でしたが、結果得たものは大きかったようです。以下は、その時の体験記です。



一度のトイレで水10リットル 使うことに有難さを実感

朝から、るみの家の水の出が悪くなり、夕方4時頃には完全ストップ…。なんとかなると思っていたけど、トイレに洗顔、台所にお風呂、なんで出ないのって自由を奪われた感じがしました。結局3泊4日の引っ越し生活となりました。一日中、仲間と一緒に行動しながら笑いあり涙ありの日々。るみさんという時間が長いこともあって、まあ怒られ、イジメられるわでピリピリ。でも、るみさんが帰ると、すぐ布団を敷いてゴロゴロしながらお菓子を食べ、気を抜いての日々でした。6年前の東日本大震災で大変な思いをした人達の気持ちにはほど遠いと思いますが、ライフラインが使えない生活の不便さを実感させられました。協力し合って仲間と共に経験したこと、恥じらいながらの一緒の入浴等、私は忘れずに大切に水や電気を使います。最後に、一度のトイレで約10リットルの水を使います。この有り難さが、今の幸せを感じさせられる瞬間です。



3泊4日のプチ避難生活体験が 仲間との一致団結に

2月下旬に、るみの家の水道が全て止まりました。水の使えない日を2日間体験し、翌日にプチ引っ越しをしました。引っ越し先は支援者の方の施設をお借りしました。水の出ない日々から解放され、トイレの水が流せた時、手を洗うことが出来た時、蛇口から水が出た時はとても大きな感激でした。皆でお布団を敷き並べ、ザコ寝で寝たり、お散歩に行ったりと、いつもと違う状況でとても楽しかったです。まるで修学旅行のような気分でした。3泊4日のプチ避難生活は仲間と一致団結し、良い経験が出来たと思います。るみの家に帰って来た時はまだ水が出ない状態で雨の中、公園まで仲間と水を汲みに行きました。でも、「家に帰って来たあ！」と、とても安心しました。次の日に水が出た時はとても嬉しかったです。生きていく中で大切なライフラインの故障…。私は初めて経験しましたが、東日本大震災の時を思い出しました。その時私は東京にいて生活に支障は無かったのですが、今回の件で被災者の方の気持ちが分かった気がします。この体験によりライフラインの大切さを身に染みて感じる事ができました。トイレを1回流すだけで10リットルの水が必要!…ということも分かりました。これからは当たり前と思わず、全てに対し大切に節約しながら生活していかなければ、と学んだ良い経験になりました。

NPO法人・潮騒JTCの 平成29年度総会開く

新理事2人が加わり、施設運営母体に厚み



NPO法人・潮騒ジョブトレーニングセンターは5月28日、鹿嶋市宮中の潮騒アディクションビレッジ会館4階会議室で平成29年度総会を開き、提出した事業計画や予算関係など全議案を、出席した理事の皆さんに異議なく承認をいただきました。今期は新たに理事二人がメンバーに加わり、行き場のない困難で多様な障害を併せ持つ人達にも救いとなるよう、“最後の居場所”づくりに踏み出した潮騒の運営母体に厚みが加わる形となりました。

冒頭で挨拶した理事長の栗原豊センター長は「少しでも弱音を吐かせてください」として、“来るもの拒まず去るもの追わず”の門戸の広い施設運営から、複合的な依存症や精神疾患、軽度の知的障害、発達障害など困難な障害を持つ入寮者が増え、新たな対応に追われている苦労を強調。こうした入寮者の受け皿となるナイトケアの増設や新たな回復プログラムの開発などに力を入れる一方、既存の福祉施設の常識に囚われない潮騒独自の「アディクションビレッジ構想」の実現に向け、財政力強化に繋がる独自事業の推進と医療付きデイケアの再挑戦、福祉施設には悲願とも言える社会福祉法人化を目指す準備作業に着手する決意が示されました。

また、義理と人情を信条とする任侠道に命を掛けた自身の過去にも触れ、世間ではマイナスとされる価値観について「依存症の回復という新しい生き方をしている今の自分にとって、必ずしも全否定はできない」「むしろ世知辛くなるばかりの世の中にあって、人に情けを掛けて互いに助け合う素朴でシンプルな生き方は捨てたものではないと思う」と述べ、言葉ではうまく説明ができないもどかしさを感じさせながらも、合理性や理屈では割り切れない良き時代の任侠道精神が間接的に潮騒の運営に生かされていることをうかがわせました。(市)

120人が参加し神之池公園で 花見プログラムを実施

開花タイミングを外すも葉桜の花見を楽しむ



潮騒JTCの春季恒例イベント・花見プログラムが4月20日、神栖市溝口の同市神之池(ごうのいけ)公園で実施され、入寮者約120人が参加しました。桜の開花時期にみんなで桜を鑑賞し、春の恵みを肌で感じようと毎年、実施されています。残念ながら桜は既に開花時期を過ぎて、ほとんどが葉桜となっていましたが、仲間達は芝生にブルーシートを敷いて、みんなでお弁当を美味しく食べました。滞在時間は2時間ほどでしたが、芝生で寝そべったり、仲間同士で戯れたり、隣のトラックでウォーキングをしたりと、それぞれ食後のひと時を過ごしました。デイケア・リーダーのツカさんは「比較的近場にある割には、ふだん行けない景勝地なので、みんな楽しそうだった。開花のタイミングは外したけれど、運動会もできそうなので来年はぜひチャレンジしてみたい」と話していました。

「るみの家」女性メンバーも桜吹雪の下でミーティング

るみの家では、男子の花見に先立ち4月16日にお花見会を開きました。去年は城山公園(鹿嶋市)でしたが、今年は男性と同じく神之池公園(神栖市)に行きました。既に葉桜でしたが、桜吹雪がとても綺麗でした。好天に恵まれ、朝から仲間達がお弁当を作り、みんなでお弁当を食べ、心地良くレジャーシートの上で昼寝もしました。「お花見」をテーマにミーティングも行いました。今年はルミ施設長が参加できず、去年のような一発芸大会はなかったですが、仲間達が和気あいあいと楽しみました。すっかり楽しい恒例イベントの一つになりました。参加したメンバーは「桜がとても素敵でした。落ちていたお花も楽しめました。みんなとお話ができて嬉しかったです。食事もお菓子もとても美味しかったです。みんなで輪になって、いい思い出になりました」(かよこ)と喜んでいました。

受刑者からの手紙

スタッフのシゲさん達と共に 回復の道に進んでいけたら…

お手紙有難うございます。先日、潮騒通信が届きました。毎月楽しみに拝見させて頂き、感謝しております。堀の外(=世間)では、色々大変な事ばかりだと思いますが、皆様体をいたわり頑張ってください。今回の手紙の返事はシゲさんに書いて頂いたのですね。シゲさん、初めまして。私は60過ぎの「K」と申します、今後とも、宜しくお願い致します。私は今までに覚醒剤とアルコール依存により何度か事件を起こして来ましたが、ここでも早5年が過ぎ、残刑が2年を過ぎました。潮騒にすぎり、何とか先が見えて来た今日この頃です。

これから先もスタッフのシゲさん達と共に回復の道に進んでいけたら、と心より望んでいます。私も人生終わりに近づいていきますので、何か一つでも良い事をしてみたいと思っています。これからご指導の程、宜しくお願いします。次回も手紙を楽しみに待っています。先日、工場担当さんが代わり、新しい担当さんの下で「心機一転」頑張っていきたいと思っていますので、どうか安心して下さい。共に頑張っていきましょう!では、この辺で。(東京都 K・Y)

70歳の私にはシゲ様が 丁度良い手本だと考えている

お世話に成っています。センター長はじめ皆様が変わりない様子の様で何よりです。お陰様で私も元気で暮らしておりますので、ご安心下さい。つい先日、センター長の代理でシゲ様よりの心温まるお便り、誠に嬉しく感謝致しております。残り5カ月で指折り数える頃になって参りました。今一度過去を良く振り返り、気を引き締めて頑張っていく所存です。

シゲ様の便りの中には「大変な思いだった」とありました。自分も人間は強い物、と感じました。私も70歳ですが、私にとってはシゲ様が丁度良いお手本かと考えております。シゲ様はそれ程酷かったのですね…。そんな過去の自分を振り返って立ち直れたのですから、根性が半端ではなかったのだ、と思いました。私も頑張っ強い意志を持ち続けられる様な男になりたいと思います。

私はまだまだどうしようもない過去を引きずっています。その意味では“社会のゴミ”のような人間以下の者ですが、今後共に歩んでいければとても嬉しく幸いです。以前に手紙にてお伝えしました“身体の不調の件”ですが、シゲ様よりのアドバイスのお陰で痛みは薄れて参りました(涙)。社会を離れてだいぶ経過し、一日も早く美味しい物を食べたいものです。今後、もうこのような苦しい思いはゴメンです。今度再犯するようだと“生きて出られない”と覚悟を持って生活していきたいと考えております。それではこの辺りで失礼致します。(東京都 S・M)

「もう私一人の力ではどうにもならない」と思う

お手紙を頂きまして、大変有難うございます。栗原センター長、シゲさん、これから宜しくお願い致します。私は17歳の時に覚醒剤を覚えてしまった事により、その後の人生が決まってしまいました。刑務所は今回で二度目ですが、娑婆での私の生活は“覚醒剤一色”と言っても過言ではありませんでした。今だからこそ、出所後はそんな生活からは抜け出したいのです。そのためには、“もう私一人の力ではどうにもならない”と思い、センター長はじめ潮騒の皆様の方をお借りしたいと、切実に思っています。出所後には、私が潮騒ジョブの門を叩く事が回復への第一歩だと確信しています。今の内に施設入寮者が守るべき規則等について、是非ご教示願います。それでは潮騒の皆様、お身体だけは大事に日々過ごして下さい。(北海道 S・M)

先月号で栗原センター長が念願だった府中刑務所へのメッセージ活動を実現できたことを報告していましたが、忙しいセンター長に替わって受刑者の皆さんへの返事にはベテランの回復者がペンを執っています。この活動は当事者本人の回復にも役立つものなので、今後もできる限り手紙による相互コミュニケーションを大事にしていきたいと思います。

反省心をもっと強く大きくするために潮騒に繋がりたい

お便り誠に有難うございます。ボン中の「T」です。遅ればせながらシゲさん、お誕生日おめでとうございます。55歳ですか…。私は今年7月で48歳になります。出所する年には49歳です。それにしてもシゲさんは写真撮影が上手ですね。もしかして娑婆職はカメラマン？ 今は潮騒のカメラマンさんなのですね。自分なんか何の取り柄もない、ただの「ボンクラボン中」です(泣)。シゲさんの俳句も良かったですよ。「初詣」の情景が目につかんで来ました！ 潮騒には最低で13カ月ですか…。最後は栗原センター長のご判断なのですね、分かりました。自分は「今度こそ覚醒剤を完璧に断ち、警察の世話や刑務所、拘置所の世話にはならないようにする。そのために潮騒さんのお世話になり、この目標をもっと強く大きくした方が良いのでは…?」と、勝手に思い込んでいる次第です。もう、近々50歳です。こういう所に世話になるのはもう飽きました。クスリをやって警察に捕まっては、刑務所に行ったり来たり…。こんな事を繰り返していたら、そりゃあ家族に縁を切られますよね。今回の懲役の逮捕の3日前に、「兄弟の縁を切ってくれ」と兄弟夫婦から頼まれ、頭に来て面白くない気持ちのまま新宿の友人の所に覚醒剤を求めに行って、3日後に逮捕です…(泣)。呆れ過ぎて涙も出て来ませんよね(笑)。

でも、こんなボンクラでも、さすがに懲りました。この反省心をもっと強く大きくするためには、やはり潮騒に繋がった方が良いのでは…? と、思っておりますので、どうか宜しくお頼み申し上げます。間もなく残刑が1年となります。もしかすると、本当にもしかですが(笑)、まあ1%くらいは仮釈あるかなあ…(笑)。まっ、いずれにしろ、あと1年です。自分もシゲさんに会えるのが楽しみです。自分が行っても虐めないで下さいヨ…(笑)。それでは体調を崩す事が無いよう無事にお過ごし下さい！ (東京都 T・S)

潮騒通信を読んでいるうちに明るい未来が見えて来た

栗原センター長、シゲさん、お手紙有難うございます。シゲさんはアルコール依存症なのですね。私にも仕事仲間がアルコール依存症で苦労していました。同じ職場の私の部下だったのですが、アルコールが体内に入ると仕事には来ずに朝までお酒を飲んで、拳句の果てには警察署の方から電話が来て、迎えに行った記憶があります。警察署に迎えに行くのは良いのですが、病院への入院が困ったものです。肝臓の方を壊してしまっているので、そのまま入退院の繰り返しです。肝炎の内はまだ良いのですが、「癌になってしまったら…」と思うと、とても恐ろしいですね。でも、依存症の場合、薬物であれアルコールであれ、あるいはギャンブルであれ、どれも頭脳が快感を覚えているので、タチが悪いですね。みんな“自分だけは大丈夫”と思っているのですが、私も人様に多大なる迷惑を掛けてしまっている事も知らない、勘違い野郎だったのです。

最近、自分を見つめ直してみると、以前の自分について“かなり勘違いをしていたのだ”と思えるようになりました。その事は“一歩前進できたのかな?”と素直に思います。今までの自分は、誘惑に負けて同じ事の繰り返しを何度もしていました。今回、潮騒の皆様との手紙のやり取りや子供との手紙のやり取り、そして潮騒通信「どっこ生きてます」を読ませて頂いているうちに、明るい未来が見えて来たようにも感じています。潮騒ジョブの仲間全員が“ステップ12”まで行く事が無いのも知ってはいますが、中には誘惑に敗けて“刑務所に逆戻り”の人もいると思います。私自身3度も同じ過ちを犯しているのですが、今度は自分一人ではなく、仲間達と一緒に“回復”という目標を持って生きていきたいと思っています。ですのでシゲさん、私が入寮した時は右も左も分かりませんので、ご指導の方を宜しくお願い致します。 (北海道 N・S)

しおさい俳壇

5月のお題

更衣

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.40

センター長 栗原 豊

前回、私が刑務所内の工場で職業訓練として取り組む革細工作業に興味を湧いた話題を姪への手紙に書いたことへの、姪からの返事の手紙を紹介した。さらに姪に宛てたその手紙は、後半でこうも書いていた。

「今、私のいる舎房には前期の訓練生4人が残り、今期の5人と合わせ9人が生活しています。この中にはパキスタン人、イラン人、ブラジル人の3人がいます。年齢は下が30歳位、上は私が一番の年長者です。みんな絵の上手な人達で、なかでも前の工場でも一緒だったブラジル人はタトゥー(刺青)師で大変絵の上手なやつです。みんな日本語も生活に差し支えない程度に話します。この9人が生活する舎房の窓外に、芍薬(しゃくやく)が今を盛りに咲いています。昨日、気づいたのですが、この花が日暮れになると閉じるのです。ちょうど今、その夕暮れ時なのですが、先ほど確かめみたところ、やはりどの花もみな閉じていました。芍薬の花ことばは、素直な生活とありました。“立てば芍薬/座れば牡丹/歩く姿は百合の花”と女性を花にたとえた言葉があります。私もこの芍薬が大変好きになりました。そこで三首作りました。

芍薬の窓下暗し天に星／芍薬の揺れるを見てる風呂上がり／芍薬の今朝の花芯の真黄色なる

ところで君はGWをどう過ごしているのでしょうか。依存症の友達はどうなりましたか。依存症の人達の病状や振る舞いを観察することも依存症克服の一助となると思われるので、君はできるだけ周りのそうした友達を助けてやりながら、自分の病気を克服してほしいと思います」

これに対して姪からの返事は、次の通りだった――。

「GWですが、私は普段から週2日しか働いていないので、祝日という実感はあまりありませんでした。今年に入ってから、ずっとこんな調子でだらだら過ごしているので、お金がなくなってきてしまい、最近就職活動を始めました。一カ所、市内にある会社に合格したのですが、行こうかどうか迷っています。就職すると、ほとんどの時間をその会社で過ごすことになるので、慎重に決めたいと思っています。休みがあまりにも多いので、暇つぶしに最近バドミントンを始めました。地元にある薬物依存症施設のスポーツプログラムにも参加させてもらっています。みんな本気で練習しているので、かなり上手です。私は中学校の時にバドミントン部だったのですが、まったく太刀打ちできませんでした。汗を流して大声で笑って、いいストレス発散になっています。昨日も参加してきたので、今日は足が筋肉痛です。ユタカさんも出所したら是非一緒に行きましょう」

今回改めて、この手紙を読んでお互い依存症という厄介な宿痼(しゆくあ)を抱えながらも、姪の前向きに生きることへの外連味(けれんみ)の無い声援に思いを馳せた。そして、老境に入りながらも自分が通う夜間高校の生徒達とスケボーに挑んで足を痛め、松葉杖の不自由な生活を送る今の自分の姿とダブらせた。世間の偏見は根強いけれど、実のところ私達依存症者はとてもイノセンス(無垢)で、永遠に若いかもしれないな、と。(次号に続く)

大人へと更衣する孫娘

じい

更衣(ころもがえ)は平安時代に旧

暦四月と十月に、江戸時代は年に四回に定められ、民間にも広まった。今では夏と秋が一般的で期日も変わるし、若者や女性のファッション的な彩も美しく、乙女達の大人かと思うほど艶治(えんや)の夏服もある。孫娘に大人を思う微笑ましい句。因みに更衣(こうい)は昔に天皇の着替えの手伝いの役職名。

新しき生き方定む更衣

しげ

織田信長が好んで舞った「敦盛」に、人間五十年、化天の内を比べれば、夢幻の如くなり(中略)があり、この時代は平均五十年余の寿命だが今は八十年余で、その間の生き方も諸々である。思えば戦争、豪雨台風、地震、また交通事故、産業災害、自身の欲に勝って生きて行かねばならない。更衣の様に生き方への決心の句。

欲棄てて心身軽き更衣

ゆたか

人間には五大欲があり細かくは百八、更に言えば八万四千の欲煩悩があると仏教では言う。それは人も動物も生き繋ぐ為に必要なことながら、度が過ぎると敵もつくり身も亡ぼすことになる、齢も重ね詩歌山河に遊ぶ境地に達すれば夏秋の更衣もまた楽しい。老境の句。

特選句

特選句

特選句

秀逸句

今月の秀逸句

今年また

白髪が増えぬ

更衣

こば

更衣も若い頃は流行の服で心も身も弾む。歳を重ねて夏の服に替えると少しは若返る思いもあるが、鏡に白髪が増えたのを見ると歳を思う。女性は髪を染め服も若向きにすれば歳も隠せるが、男はそうもゆかない。俳諧の句です。

衣替え

自分色より

あなた色

G

歌謡にも、貴方の色に染まる：などと歌われますが、若い頃は服装や色柄も思う人の好みに合わせる。また若い時は、どんな物を着ても案外に似合う。それが若さでもあります。私にも昔が懐かしい句です。

更衣

今朝の眩しき

女学生

あべ

更衣は官庁や学校などでは六月に行い、都会の通勤通学の景も晴れやかになる。ことに女学生達の紺と白の制服は清々しく、夏来るを思う。学生の頃が懐かしい句です。

愛おしや

ペアールツクの

更衣

あお

親子、兄弟、姉妹、恋人などで同じ色や柄の服を着ているのを良く見掛けますが、仲良しそうで微笑ましい。今では色もデザインも自由なので都会では驚く様な服装を見ますが、姉妹らしいのを見掛けると愛らしくも思う。明るい句です。

更衣

今年もこれが

着れるかな

ひろ

子供の頃は兄弟のお下がりであつたりして、寸法が合わない心配もありますが、大人では太ったり、余りにも古いなどで着れないのもあります。好きな服には愛着もある実感の句。

独り身の

買い物帰り

夏の月

なかもり

買い物は日常の事だが、男が食品や下着など買うのはどこか寂しい思いがあります。「蛸壺や儂（はかな）き夢を夏の月」（芭蕉）を思う少しの哀れを込めた男の句でもあります。

佳作

筑波山色とりどりの更衣

こば

更衣我の基準で日を定む

おの

棄てられず今年最後の更衣

こば

夏服の透けるブラジャー可愛いな

くり

代掻きも終えて田圃も更衣

こば

更衣こんなところにこの服が

ひろ

鳥海山白より緑更衣

あべ

初夏の水面テラテラ北浦湖

いげ

いざ参る恋も仕事も更衣

あお

学ランの汗ばむなれどまだ着るる

あお

イチさんの棚卸

第5回「日記風の回想録」

僕は一昨年の夏頃より、潮騒太鼓連中として和太鼓に取り組みました。仲間とともに秋の神栖市芸術祭、て〜ら祭、潮騒フォーラムで和太鼓を披露させて戴く予定だったのです。でも、神栖市芸術祭の翌日に腰が痛くなり、整形外科で椎間板ヘルニアと診断されました。思わぬトラブルで、しばらく休養する羽目になってしまったのです。でも僕はどうしても太鼓を諦め切れなくて、毎週の太鼓練習にはなるべく顔を出していました。そんな中、暮れの太鼓練習の時に灘太鼓の先生から「元旦に神栖市の息栖神社で太鼓の初打ちを披露するので、出来たら潮騒の皆さんもやりましょう」と誘いを受けました。僕は持病の事があるので参加すべきか迷い、内心はドキドキでした。それと言うのも三が日は施設も休みになり、「元日から太鼓をやるのか…」と思っていたからです。

でも、それは杞憂でした。年が明けて元旦になり、僕は思い切って太鼓の仲間と息栖神社での初打ちに参加しました。肌を刺す正月らしい寒さに身が引き締まり、空気の美味しい事にビックリ。いつしか心の中が「こんなに有意義な元旦は何年ぶりかな…」と感謝の気持ちになりました。そして初打ち本番。太鼓の衣装に身を包み、参拝客で賑わう境内の一角で和太鼓の演舞をしたのです。演目では途中、みんなで「雀踊り」をやる事になっていたのですが、僕は鉦(かね)のパートが出来なかったので、灘太鼓の方に鉦をやって貰い、僕は今まで練習してきた曲の鉦だけを一生懸命やりました。役不足だったかもしれませんが、仲間達と「正月からこんな風に世間に貢献出来たのは久しぶりだね」と口をそろえました。

帰りには灘太鼓の皆さんと一緒に打ち上げもやり、最高に有意義な元旦でした。僕も仲間たちも「この熱い思いを忘れないで、回復に向けてのプログラムに打ち込もう!」と決意を新たにしました。毎年この調子で和太鼓を続けていきたい、潮騒 JTC で太鼓活動を頑張って続けていきたい、と心より思ったのでした。(イチ)(第1部終了)

※紙面の都合で好評連載中の「ブーちゃんの回復記」は今回休載しました。次回をお楽しみに!

5月のバースデー

いち



頑張る

ぐっさん



まもなく退寮

長吉



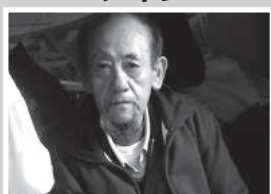
食器洗い命

エビケン



違う土地で誕生日を迎えるのは初めてです。

アキラ



ピース

フジ

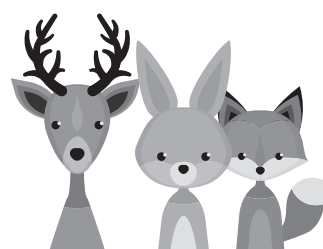


今日一日

グッチ



努力



5月の行事予定

- 5月3日 白浜少年の家 うどん作り
& 釣り・グランドゴルフ
- 5月4日 潮騒田植え
- 5月11日 潮騒俳句会
- 5月14・21日 秋元病院メッセージ
- 5月28日 潮騒家族会
- 5月28日 NPO法人潮騒JTC
平成29年度総会

6月の行事予定

- 6月8日 潮騒俳句会
- 6月10日 JAしおさい鹿嶋農産物直売所
メロン祭り
- 6月11・17日 秋元病院メッセージ
- 6月25日 潮騒家族会

献金・献品を頂いた方 (5月15日現在)

- | | |
|---------------|----------|
| ・ K&G 企画 様 | ・ 内堀高良 様 |
| ・ くるまや 様 | ・ 横堀 様 |
| ・ 坂西 学 様 | ・ 木村昭子 様 |
| ・ 松倉中央クリニック 様 | ・ 武田志保 様 |

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に
同封させていただいております。
どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

僕がダルクや潮騒に関心を抱く最大の理由は、その内部に権力構造を否定する不思議なメカニズムを秘めていると思うからだ。非組織とか、反組織とか、日本では当たり前の考え方の対極に立っている。見方によっては社会通念を覆す「非常識のパワー」だけに、とても危ういところで成立しているとも言える▼この国では何か行動を起こす場合、まずは同じ考えや立場の人達を集める。これを円滑に運営するためには一定のルールが必要だとして、ほぼ例外なく規約を作る。一定の条件で参加者を囲い、線引きするのが通例だ。国家、自治体、政党、企業、PTA、町内会…に至るまで、この運営スタイルはほぼ踏襲されている▼次いでトップを決め、ピラミッド型のヒエラルキーを作る。そこに権力(予算と人事)を集中させる。だから権力欲と名誉欲に囚われた人間が群がり、鎗を削る。こうして権力闘争による権謀術数(けんぼうじゅつ)や、魑魅魍魎(ちみもうりょう)の世界が出現する。やがて組織は本来の目的から遠ざかり、肥え太った組織の維持が自己目的化される▼そうすると、この無機質な組織体に個人が支配される歪んだ構造が出来上がる。トップが人望あるリーダーならいいが、どうみても“危ない”人間なら悲劇だ。どこかの国を挙げるまでもなく、最悪の場合はトチ狂ったリーダーによって国民が命を落とす事態だって生じかねない。これを防ぐには、ふだんから組織(国家)を厳しくチェックすることが必要だ▼しかし、そのチェックを怠ると危険だ。行き着く果てが国の破滅でしかない事は、過去の悲劇的な歴史が教えている。残念な事に今、僕達の前には世界レベルからこの国の現状に至るまで、一番避けなければならない歪んだ権力支配の構造原理がまかり通っている▼そう言えば全国に増えたダルクの中には、いつの間にか入寮者が病気を持つ人間ではなく、お金にしか見えなような倒錯した施設もあると聞く。入寮者が札束にしか見えなくなったら、その施設は単なる金儲けのための、悪しき貧困ビジネスと何ら変わらない。繰り返すが、ダルクや潮騒の真骨頂は、権力を無化する不思議なメカニズムにあると僕は信じている▼金がすべての風潮の下で、理屈を超えて命の尊厳を掲げ、マザーテレサのような博愛主義をモットーに、人間の回復に希望を見出す活動は、この世知辛い世の中にあつて一服の清涼剤のようなものだ。そこに権力構造が生まれ、支配と抑圧の歪んだ関係が出来上がってしまったら、その施設は形を変えた依存症の病理に足をすくわれたことになる。もはや笑うに笑えない。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2017年5号**Contents**

- P② 「“行き場のない仲間”の登場で命の尊厳を思う」
- P③ 秋元豊・秋元病院名誉理事長のご逝去を悼む
- P④ 2017 シリーズ企画「潮騒ジョブってどんな施設なの?」
その3: デイサービス「百寿亭」
- P⑥ 初体験手作りうどん ~仲間 100人が挑む!
- P⑦ 潮騒12周年フォーラムのテーマ決定
「義理と人情と神の愛 ~ 主役は仲間たちだ! ~」
- P⑧ 断水トラブルで「るみの家」メンバーがプチ避難生活
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇 5月のお題「衣更」
- P⑭ イチさんの棚卸第5回「日記風の回想録」/ 5月のパースデイ
- P⑮ 行事予定 / 編集後記 / 献金・献品 / 目次

■ 編集・発行:

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス銚田
〒311-2113 茨城県銚田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



